

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案 (同和問題)

1 単元名 同和問題と自分

2 単元について

部落差別の解消について、1969年に制定された同和対策事業特別措置法等に基づき、生活環境の改善等が進められてきたが、2002年にその役割を終えて失効し、その後、同和対策事業や人権擁護に関する法律が制定されてこなかった。しかし2016年(平成28年)12月16日、部落差別の解消の推進に関する法律が公布・施行された。この法律が出されたのは、情報化が進むことで、部落差別が、新たな状況下にあるという背景がある。実際にインターネット上では、同和地区の地名を書き込む悪質な行為が後を絶たない。また、同和地区のリストをネット上に公開する悪質な行為も発覚している。前述の法律が出された後も、2017年6月にグーグル社が提供する地図アプリ『Googleマップ』にて表示される大阪市内の私鉄駅名の表示が、本来のものから差別用語である『部落』という単語を加えたものに改ざんされ、削除依頼が相次ぐ騒ぎが発生した。インターネット以外にも、旧対象地域だけを地域の行事に参加させないという事案等、多くの事案がメディアに取り上げられ続けている。また、結婚については、依然として否定的な考えの人がおり、実際に結婚できない場合が現在もなお存在している。

さて、日本の人権課題のスタートとなった同和問題について、現在、「あからさまな差別」は無くなってきたと言われることが多いが、ネットへの書き込み等、差別行為をする者が、自分の正体が明るみにされないようになってきただけで、依然、差別は無くなっていない。そして、未だに、特に結婚時において、他の理由にすり替えられ、明らかにされないまま差別をすることは、決して無くなってはいない。「同和問題は解決に向かっている」というのは、「差別が表沙汰にされなくなってきた」もしくは、「私たちが敏感ではなくなってきた」と言えるのかもしれない。全国水平社の宣言がされてから100年になるとうする現在、依然差別行為がなくなる現状と、無くならなかった事実から想像できる未来は、何もしないままでこの問題が解決に至ることを示していない。日本固有のこの人権問題については、解決に向けた学習と啓発活動を行い、真に解決に至ったとされるまで、さらにもこれからも努力し続けなければならない。

3 単元の目標

同和問題について正しく理解し、同和問題解消に向けて、正しく行動しようとする意志を育む。

4 単元における評価

項目	問題解決につながる知識 (認識力)	共同的に学ぶ技能 (自己啓発力・行動力)	自他を大切にする 価値観および意欲 (自己啓発力・行動力)
規準	<ul style="list-style-type: none">資料や仲間の意見から同和問題に関わる差別事象とその原因について理解している。同和問題の解決につながる正しい言動を理解している。	<ul style="list-style-type: none">資料から感じた自分の考えを進んでノートに書いたり仲間に伝えたりしている。仲間の意見を共感的に受け止め、自分の考えを再構築している。	<ul style="list-style-type: none">同和問題の根本的な構造を理解し、自分の生活の中に潜む、同和問題解決とつながる見方や考え方を身につけている。差別解消に向けて、正しい行動をとろうとしている。

5 本時の目標

同和地区と関わりがあることを結婚する相手に伝えるかどうかを考えるを通して、「伝える」ことが正しいと感じることに差別心があること、「伝えない」側には差別と立ち向かえない心の弱さがあることがわかる。

6 本時の展開（『結婚』を考える）

段階	主な学習活動	留意点と評価
導入	<p>【気づく】</p> <p>1 前時を振り返り、同和問題について学んだことを確認する。</p> <p>2 課題をノートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>結婚相手に同和地区と関わりがあることを伝えるか伝えないか</p> </div> <p>3 課題について考えながら、映像資料「あなたに伝えたいこと」2nd/3 (11:30~21:48) を視聴する。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="font-size: small;"> <p>真央は、恋人の拓海の親が身元調査をする人ということから、幸子(母)から結婚を反対される。真央と衝突した幸子は実家に帰る。母の実家が同和地区だったと気づき始めた真央は、幸子を追って祖母宅に行く。母の努力や辛い体験、義則(父)が差別を乗り越えようとする人だということを知る。そして、自分に同和地区とのかかわりがあることを拓海に伝えるかどうかを幸子に相談する。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・身元調査自体が差別につながっていることに言及している生徒の言葉を紹介する。 ・「伝える」ことが正しいという考え方は、同和地区との関わりがあることがマイナスであるという発想からきていることを心得て進める。
展開	<p>【わかる】</p> <p>4 自分が同和地区とのかかわりがあると分かったら、結婚しようとする相手に伝えるかどうかを考え、班で交流し、ホワイトボードにまとめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手は差別しないと信頼しているから。 ・伝えなければいけないと思うから。 ・このままだと相手の両親に反対され、結婚できなくなるから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">伝えない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたら差別されるかもしれないから。 ・大切なのは二人の気持ちだから。 ・差別する人が悪いのだから、伝えなくてよい。 </div> </div> <p>5 4をうけて、考えを学級で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伝える」相手の家族が気にするのだから、伝えなければならない。それで断られるなら、その相手とは結婚しない方がいい。 ・「伝えない」差別することがおかしいのだから言う必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、各班の状況を伝えることで、自分の考えと比較させながら、再考させたい。 <p><補助発問></p> <p>「伝える」側へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ伝えなければならぬのか。 <p>「伝えない」側へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えないことは相手側の差別を許すことになるが、それでいいのか。 ・仲間の意見を聞いて、自分の考えに変化が現れた生徒の意見を引き出した。
終末	<p>【見つめる】</p> <p>6 本時の学習で感じたことをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えることが正しいと思っていたけれど、その時点で同和地区について少し差別していることに気が付いた。また、伝えないと差別を許すことになり、差別に立ち向かっていないことになることもわかった。伝えるとしても、差別と立ち向かう強さが必要だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような選択をする背景には、差別をする側の存在と差別がある社会に問題があることに気づかせたい。